

Twitter における情報発信の意識とモラルに関する研究

岡田 優之介 (21111072yo@tama.ac.jp)

1. はじめに

近年、Twitter の利用における炎上トラブルが多発している。炎上の主な原因は、公序良俗に反する行動や盗撮行為、人格への中傷、法律の違反行為を Twitter でつぶやくことである。また多くのツイートは不適切な行為の画像も同時に掲載しているケースが多く、その画像から逮捕に至る者まで出ている。

そこで本研究では Twitter における利用状況や利用方法と情報発信に対する意識やモラルの差を明らかにすることを目的とする。また、違反行為により逮捕者された者の中には「目立ちたかった」と供述する者もあり、ある種の欲求を満たすためではないかと思われるので、両方の視点から研究を進めたい。

2. 研究方法

まず初めに研究方法だが、本研究ではアンケート形式で調査を行うこととした。アンケート形式で調査を行う理由は、聞き取り調査に比べて多くのサンプルを集めるのが容易であることが挙げられる。本研究の研究対象者は大学生、高校生、中学生にする予定であり、多くのサンプルを元に分析をしたいと考えている。

アンケート調査の内容・項目について触れる。アンケートの内容・項目は利用状況・利用方法と意識・モラルの両面が測れるものにする。利用状況・利用方法の内容・項目としては「Twitter を利用しているか」、

「一日にどのくらい利用するか」等の調査を行う。意識・モラルについては「ツイッターを本名で登録しているか、匿名で登録しているか」、「どんな事をツイート(発言)するか」、「公開していいもの、非公開にしたいもの」等の調査を行う。また各項目の関係性も調査していきたい。

本調査では前述した通り、人間の欲求、心理面からも分析を行う。社会心理学等の文献・資料を主にして分析を進めたい。

3. おわりに

本研究の今後の課題としては研究方法が主になる。まず初めにアンケートの調査内容・項目である。利用頻度、本名登録の有無、公開・非公開以外にどのような調査項目が必要か検討している。また、発言内容と発言前の意識について調査する場合の項目や質問文についても検討中である。

本研究の今後の予定は、アンケートの調査内容・項目の検討及び、調査対象の確保を中心に研究を進めたい。

参考文献

- [1] 「総務省 情報通信白書」
<<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/index.html>>
(2013/12/12 アクセス)